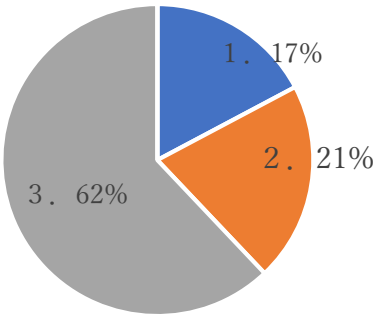


2021 年 二級建築士設計製図 本試験 答案検証ヒアリング集計結果

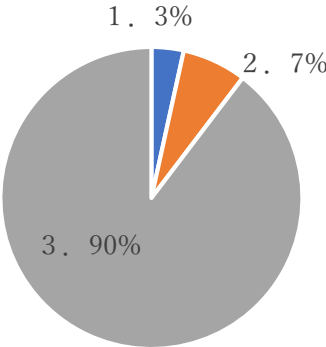
Q 1.図面の完成度

- 1. 密度よく書き上げた ■ 2. 通常程度に書き上げた
■ 3. ギリギリ書き上げた ■ 4. 完成しなかった



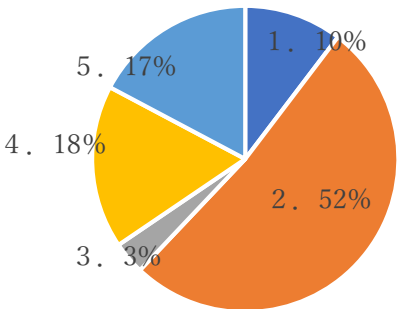
Q 2.試験の難易度

- 1. 簡単だった ■ 2. 普通だった ■ 3. 難しかった



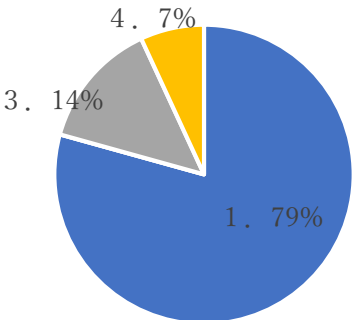
Q4.1階の平面図の大きさ

- 1. 8m×14m ■ 2. 8m×13m ■ 3. 7m×14m
■ 4. 7m×13m ■ 5. それ以外



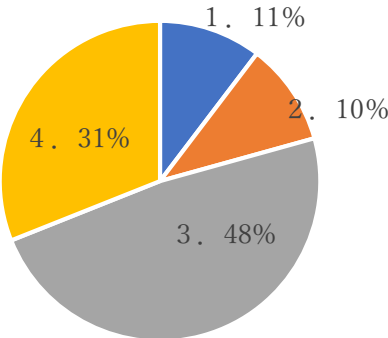
Q 5.住宅と待合室の出入口の配置

- 1. 住宅の出入口を建物の奥側、待合室の出入口を建物の正面
■ 2. 住宅の出入口を建物の正面、待合室の出入口を建物の奥側
■ 3. 住宅の出入口と待合室の出入口の両方とも建物の奥側
■ 4. それ以外



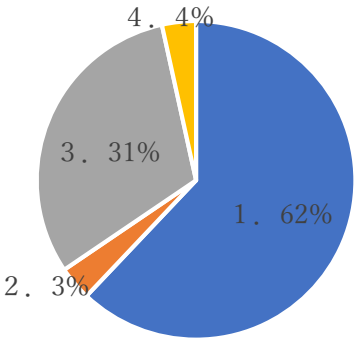
Q 6.敷地の傾斜に対する対応

- 1. 1Fの床をフラット、GL+200mm以下
■ 2. 1Fの床をフラット、GL+200mm超～400mm以下
■ 3. 1Fの床をフラット、GL+400mm超～600mm以下
■ 4. それ以外



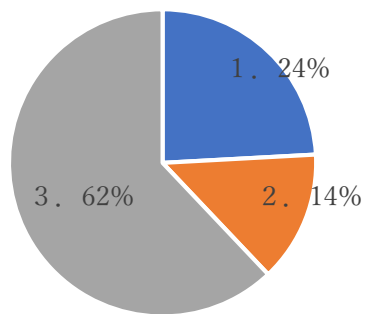
Q 8. GL(道路境界線)からの
軒の高さ

- 1. 9000mm以下 ■ 2. 9000mm超～9300mm以下
■ 3. 9300mm超～9500mm以下 ■ 4. 9500mm超



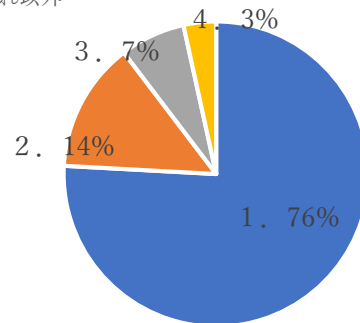
Q9.書斎（A）と書斎（B）の配置

- 1. 書斎（A）と書斎（B）の両方を2階
- 2. 書斎（A）と書斎（B）の両方を3階
- 3. 書斎（A）と書斎（B）の片方を2階、もう片方を3階



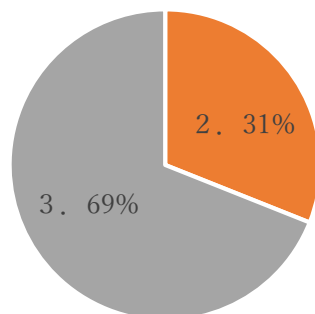
Q10.住宅の居室の採光

- 1. 全ての部屋に採光を確保した
- 2. LDK,夫婦寝室,子ども室は確保したが、書斎A・Bは考慮しなかった
- 3. LDK,夫婦寝室,子ども室のいずれかで確保しなかった
- 4. それ以外



Q11.部分詳細図(バルコニー部分) は書けましたか？

- 1. 完璧に書けた
- 2. およそ書けたと思う
- 3. なんとか書いたが自信がない



2021 年 二級建築士設計製図 本試験 答検証ヒアリング集計結果の講評

二級建築士設計製図試験を受験された皆様、本当にお疲れ様でした。

答案検証ヒアリングアンケートにご協力いただきました受講生の皆様、ありがとうございます。集計結果に基づいて、以下に簡単な講評をいたします。

Q1「図面は完成しましたか？」

「完成しなかった」人は0人です！「密度よく書き上げた」人が17%、「通常程度に書き上げた」人が21%、「ギリギリ書き上げた」人が62%でした。この試験はとにかく書き上げることが大事ですので、皆さん本当によく健闘頂けたと思います。

Q2「試験の難易度はどう感じましたか？」

「難しかった」と答えた人が90%でした。ほとんどの人が難しいと感じた様子です。

Q3「Q2の理由をご記入下さい。」

難しかった理由については、ほぼ全員が「敷地の勾配についてどう処理すればよいかを悩んだ。」と回答頂きました。また約半数の人がバルコニーの詳細図について練習していなかったため、難しかったと回答頂きました。

Q4「1階の平面図の大きさをいくつにしましたか？」

「8m×13mの大きさにした」人が52%で最多です。隣地との空きを1m、住宅へのアプローチを2m、前面道路との空き寸法を駐車場スペースの6m、とすればこの大きさになります。この大きさであれば、部屋の配置上もあまり無理がありませんので、適当な大きさと言えます。

Q5「住宅の出入口と待合室の出入口はどこに配置しましたか？」

「住宅の出入口を建物の奥側、待合室の出入口を建物の正面側とした」人が79%と大半を占めました。こうすることで、歯科診療の入り口が正面に、住宅の階段E Vが建物の奥側に配置されますので、標準的な良い配置と言えます。

一方、住宅の出入口と待合室の出入口の両方とも建物の奥側へもっていった人が21%います。これは、建物のレベルを上げた結果、スロープの長さを確保するためと考えられます。あまり一般的でない配置ですが、傾斜対応のためと考えれば、間違いにはならないと思います。

Q6「敷地が傾斜していることに対してどのように対応しましたか？」

「1Fの床をフラットにして、GL（道路境界線）+400mm超～600mm以下とした」人が48%と最多でした。こうすることで、建物の床面が地面に埋まることを避けることが出来ますが、待合室の出入口へのスロープの長さの確保と、軒の高さが9000mmを超えないことへの工夫、が必要になります。

Q7「Q6でそれ以外を選択された方のみ、どのように対応したかを教えてください」

敷地の傾斜への対応で1階の床をフラットにせずに段差を設けたとした人が31%でした。内部で段差をつくることで、敷地の勾配に上手く対応しやすくなり、課題の意図にもっとも沿ったプランニングが可能と言えます。一方、内部での室配置や階高の処理などが難しいので、注意して計画を進める必要があったでしょう。

Q8「軒の高さをGL（道路境界線）からいくつにしましたか？」

「9000mm以下とした」人がもっとも多く、62%でした。設計条件に対してはもっとも安全ですが、1Fの床高を通常より上げた場合は各階で梁下の寸法などが過少とならないように階高を慎重に調整する必要があります。

また、「9300mm超とした」人が35%いらっしゃいましたが、をGL（道路境界線）からの高さが9300mmを超えると、平均地盤面からの高さで考えても「軒高を9m以下とする。」条件を守ることが難しくなります。

Q9「書斎（A）と書斎（B）は何階に配置しましたか？」

「書斎（A）と書斎（B）を2階と3階に分けて配置した」人が62%と多数を占めました。書斎については、まとめて配置しても、分散して配置してもどちらでもプランをまとめることは可能ですが、まとめて配置する場合は採光をとることが難しくなりがちですので、注意が必要です。

Q10「住宅の要求室（LDK、夫婦寝室、子供室、書斎（A）、書斎（B））に採光を確保しましたか？」

「すべての部屋に採光を確保した」人が76%と多くの人が対応できた一方で、書斎（A）、書斎（B）については考慮しなかった人が14%いらっしゃいました。書斎については、一般的には採光が必要な部屋となりますので、やはちキッチンと採光が確保されている方が良いでしょう。ただ、近隣商業地域の敷地ですので、隣地との開き寸法がそれほどなくても、大きな窓を設けていれば、採光の確保が可能となる場合が多いです。

Q11「部分詳細図（バルコニー部分）は書けましたか？」

「なんとか書いたが自信がない」という人が69%でした。今回初めてバルコニーの部分詳細図が問われましたので、敷地の傾斜に次いで皆さんが戸惑った内容でした。ただ、断面図ではおなじみの箇所ですので、自信がないもののなんとか対応できた人が多かったと思います。

答案ヒアリングの結果についての講評は以上になります。今回の課題では敷地の傾斜というサプライズがあり、多くの受験生の方が対応に苦慮した様子がよく分かります。このような時は、この論点に関しての採点で、あまり差がつかないことが予想されます。

図面を完成させた皆様は、まずは採点の土俵に乗ったと考えましょう。もし傾斜への対応が上手くできていなくても、合格の可能性は十分に残されていると思います。あまり心配せずに12月の結果を待ちましょう。

皆様の合格を心から祈っています。

.....

お知らせ

2022年の課題は「木造」が予想されます。早めの準備を行いたい方向けに、TACでは来年早々から「総合設計製図本科生」を行います。詳しくはホームページ https://www.tac-school.co.jp/kouza_kenchiku/kenchiku_crs_2kyu_sekkeisouki.html をご確認ください。